

日本酪農発祥の地

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第023号
名称(型式等)	嶺岡牧(みねおかまき)【千葉県酪農のさと】
所在地	千葉県南房総市大井686番地
設立年	寛政8(1796)年頃

選定理由

日本の酪農発祥の地は、千葉県南房総の山あいの嶺岡地域といわれています。千葉県安房地域の酪農のあゆみは日本の酪農の歴史には欠かすことのできない役割を担っています。

酪農発祥の地「嶺岡牧」

安房地域の酪農発祥の基礎となった「嶺岡牧」の創設年代は不明ですが、『延喜式』(927年撰進)の中に嶺岡牧の前進をなす「鈔師馬牧」や「白浜馬牧」が載っていることから、既に平安時代から牧畜が存在していたと考えられています。戦国時代(1500年代)に国守里見氏が軍馬を育てる目的で嶺岡に牧を作りました。その後、江戸幕府が嶺岡牧を直轄します。江戸幕府8代将軍徳川吉宗は、享保13(1728)年インド産といわれる白牛(乳牛)3頭を輸入し、嶺岡牧で飼育を開始します。これをもとに頭数を増やし、寛政4(1792)年頃には、強壯剤や解熱、さらには労咳、婦人病、便秘、中風等を効能とする薬などに用いた『白牛酪』という乳製品の製造を開始しました。吉宗公が牛乳を使って乳製品を作ったことが、日本の酪農の始まりとされており、昭和38(1963)年5月に『日本酪農発祥の地』として「千葉県史跡」に指定されています。

嶺岡牧と安房地域の牛の変遷

明治の初め嶺岡牧は政府の管理下にありました。明治6(1873)年に牛疫(牛の伝染病、死亡率が高い)が発生し、268頭いた牛が24頭となり、白牛は全滅しました。その後有志により設立された嶺岡牧社は南部産雌牛百数十頭や洋種牛などを購入し、繁殖・改良を進め頭数を増やしました。

明治22(1889)年には嶺岡畜産株式会社が発足し、アメリカより短角種50頭及びホルスタイン種雌雄2頭を輸入するなど、明治20年代後半には、安房の牛は短角種で統一の形になりました。

しかし、明治30年代になると、乳量の多いホルスタインが注目され、安房各地でアメリカ、オランダや国内からの基礎牛導入が始まりました。明治末期にはホルスタイン種へほぼ牛種が統一され、さらに日本最初の能力検定事業も開始されて改良が進み、安房地域が長い間乳牛の産地として隆盛を続ける基となりました。



写真1: 嶺岡畜産株式会社(明治43(1910)年)

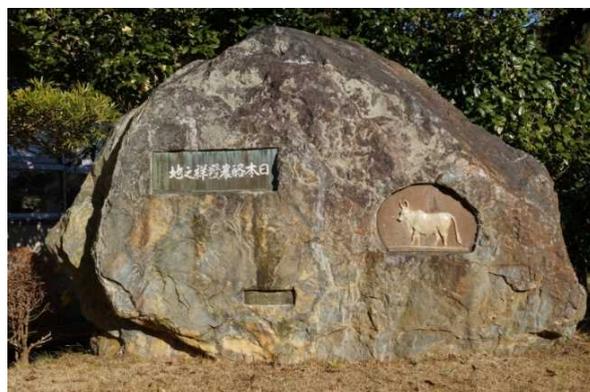


写真2: 『日本酪農発祥の地』の碑
(千葉県畜産総合研究センター嶺岡乳牛研究所内)

協力: 千葉県酪農のさと

参考資料: 千葉県酪農のさとホームページ